

J 2. 796

\*WHAT KIND OF Disease is Diabetes"

67/14

C

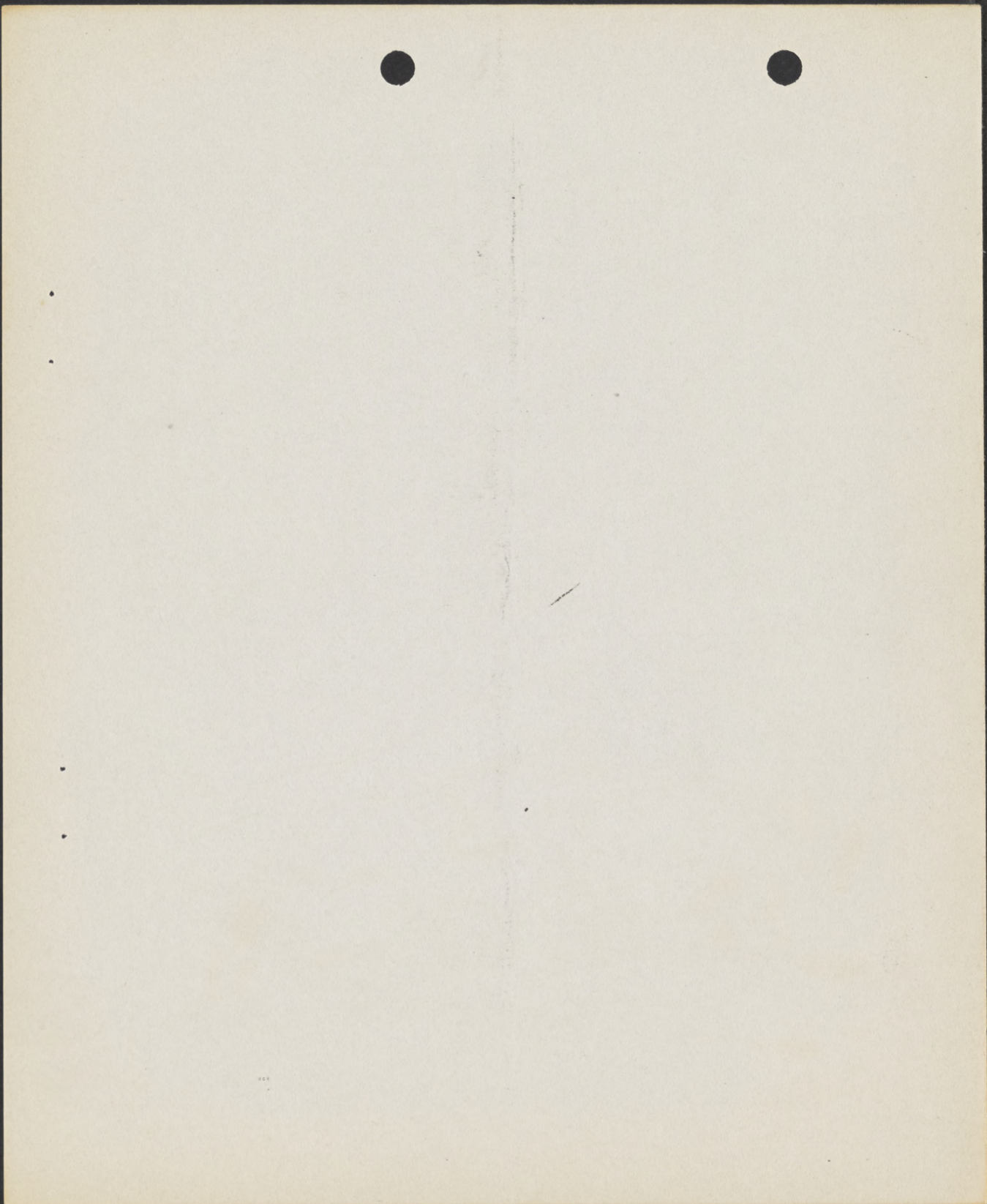


====  
糖尿病を克服した  
山本不即さんのお話  
=====

糖尿病とは  
如何なる病気？

アリスナ  
ホストン公衆衛生局







山本太郎さんは極めて強健な体の持主であつた、その上彼の妻はお料理がなかく上手だつたから平生充分の營養がとれたばかりでなく身体は寧ろ太りすぎる位であつた、そうして毎日何等の悩みもなく如何にも樂しそくに彼の農園に働き続け居た、收穫の矢に於ても常に隣近所を凌駕する程の成績をあげて居たのであるが四十の声をさく頃から晩になつてどうも疲勞を感じる様になり始つた、勿論食慾は盛んで何を食べても美味しく沃山食う此の下であつたがイクラ食べても空腹を感じて困る、又水も驚く程沃山飲むのであるが、いくら飲んででもつと飲みたい様の氣がした、  
之れを見た彼の妻の心配は一通りでなかつた、とうとう医者の方を診察を受ける事にした、医者は綿密に診察した結果血液の循環を早速検査する事にしたが検査の結果既に十封度まで減じて居たことがわかつた  
太郎さんには是に傷があつたが其傷がなか／＼癒らないことにも氣がついた、





次ぎの日に医者かう呼ばれて糖尿病といふ宣告が下された、太郎は勿論今更なりと驚いた、而し医者は糖尿を克服する爲めには此の養生法を厳守するのが何より大切であるかうその方法を修得する迄毎日才ヒスに通はれる様態に勧め、尚又医者は大きな椅子に坐たれて長時間に亘り諄々としてその養生法を太郎さんに説明された。

『誰でいそうであるが一度此の糖尿病に罹つたが最後糖分を營養化することが出来なくなる、營養化することが出来ぬから糖分は何の用途にもならず其の終体内にある、血液と腎臓は一生懸命此の有用物を体外に排出し様と務めるのである、それ此の病氣の人の血液内や尿中には多量の糖分が含まれて居るのである、』

太郎さんの血液中には尿の中にも検査の結果必要以上の糖分が多量に発見された、かくして毎日營養にならねばならぬ糖分を多量に含んで居るの

失つて居るからで太郎の体がだるくなり容易に疲れるのも亦休量が減退し始めた





のもそも水が原因として居るといふ又医者も太郎の足の傷を丁寧に見査して説明されるのには糖尿病患者はとんち小さい傷でもなかく治りにくいもので念々傷病に罹り易いから如何なる小さい傷でも必ず防腐剤をつけて局部の廻りの皮膚を清潔にし始終乾かしておく様注意し、太郎の傷の上に防腐剤を塗りその上消毒ガーゼを当てそれを丁寧に綿帯で巻いて、患部の傷の手当は斯々すべしだと詳しく説明された

#### 次にドク

ターはどんな食物を攝らねばならぬいか説明された、一定の食物と一定の量の食事を厳守することが大切で太郎の病氣には食事療法を



り他に何時の薬はないから太郎は病氣を悪化させぬ爲めに適當なる食物を攝取すべきを心得せねばならないと尚又ドクターは太郎の毎日について父の書いたものを左記の様な食事表を提示された。

#### △朝食

セリアル一カップ(マジ、コーンフレーク等)

ミルク(一カップ)

ブレードースライス(バター又はマーガリンをつけて)

二卵又は肉菜少量

一果物(オレンジ、アップル、アツフル)

ス、バナ、タンヂリン、グレープフルーツ、グレープス)

△昼食

#### △野菜物

一野菜物一カップ(青野菜クックした物)

グリーンビーズ、ビーツトツポ、ブロッコリー、アスパラガス、スイスチヤード、

ターナツポ、タツポセロリ或はキャベツ

一野菜物一カップ(着色野菜クックした物)

キヤロット、黄色ターナツポ、スクワシ

ビーツ、ピー、コーン或はトマト)



一 フレッシュ スライス (バター 或は フォーチ  
リン 附けて)

一 肉、チーズ、豆腐、魚

一 フルーツ

一 茶、コーヒー、ポスタム、砂糖なしコ

ー 或は チョコレート

### △ 夕食 (昼食と同じ)

一 野菜類、生一カツ又ロクツクした物

一 肉、チーズ、豆腐、魚

一 フレッシュ スライス (バター 或は マーゲリ

ン 附けて)

一 果物

一 茶、コーヒー、ポスタム

医者は又曰はく

貴方の飲食物、茶、コーヒー、ポスタム

ココア、セリアル 或は果物等には砂糖の

代りにサツカリンの錠剤を使用すること

何故なれば此のサツカリンは食物によ

く甘い味をつくり、此共砂糖でないから

であること

其後三週間してから又太郎は医者の処を

訪れた、尿にも血液にも糖分が大分減少  
して居つた、之れは太郎がよく太郎の頼  
みとするドクターの言を守り食事に注意  
したからです

此の特ドクターが太郎に向つて言はれる  
のには常に身体を疲らせない様に注意す  
ること、過激の労働の後には必ず暫く休  
むこと、夜は少くとも八時間の睡眠をとる  
こと。

之に對し太郎は毎晩八時間も寝ることは  
隣近所に対して餘り急げ物と思はれはし  
ながらと恐れ、医者は断固として之れを  
厳守すべく命じた、隣近所の人々の言に  
左右されるべき時ではない、病気を克服す  
るには以上の條件、此こそ太郎には最も  
大切だと言ひ明かせられた

又医者は太郎の足の傷を検査して経過は  
大変良好であると曰はれた、足の傷の話  
の序に医者は太郎の足指の爪を切る時よ  
く注意する様附言された、足指の爪を切  
る時は真直ぐに切つて両端を絶対に切ら  
ぬこと、之れはその切口から傷を癒へて

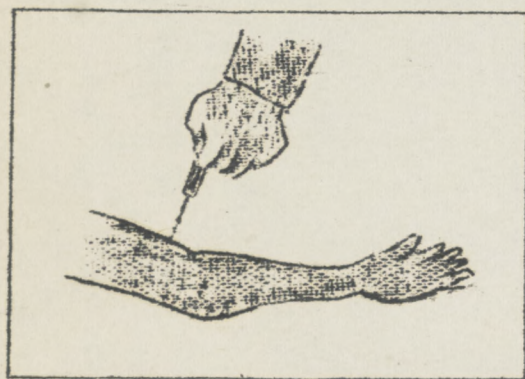


傷病になる恐れがあり爪の傷病は極めて危険であつてそれが爲め指は是全部を切斷せねばならぬ様なことになる。四日目太郎が医者へ行つた時とうとうここが太郎は大変気分が悪く血液内にも尿にも糖分が増加して居ることが発見された。そこでドクターは如何なる原因によつて病状が悪化したかを調べるために最近太郎日常の生活を尋ねて見た。太郎は隣家の人が持つて来てくれた饅頭を我慢しきれなくなつて沢山食べちやつた事を白状に及んだ。



医者は太郎に向つて五六日間ベッドの中に絶対安静に休む事と今後ばどんなことがあつても、ドクターの注意を怠つてはならないと命じた。これで太郎は始終夢に画いたアイスクリームやキャンディーやケーキ等といふ美味

しいものを口にすること日昇の破滅を來たすといふ事がよくわかつた。その後一週間経て医者の許を訪れた時には大変経過良好に進展しつゝあつたけれど依然として多くの糖分がこれてはいなかつたのである。そこで医者は太郎の治療にインシュリンといふ藥を使ふと云つた。此の藥は血液内に在る過剰の糖分を急速に營養化する作用を持つて居るから無駄な糖分がなくなり従つて尿中にも糖分を現はさぬのである。



此の藥をつかへば氣持も大変よくなれると思ふと言はれた。最初太郎の腕にインシュリンを注射した。そうして翌日尿のサンプルを四個持参する様に命じた之れは医



者がインシュリンの注射量を測定する為めであつた。かくして太郎はインシュリンを薬は恐ろしく効能のあるもので同時に使用法には細心の注意が必要なりとも了解した。

今日世の多くの糖尿病患者は此のインシュリンの志用により如何に病苦を減せられて居るか之れは正しく糖分を以前の如く消失せずにはすむからである。ドクターが言はれた。

其次きに医者を訪問した時には最早自家で尿を検査する方法を覚えてしまひ、その方法は至極容易である、と同時に再三医者を訪問せずとも病気の経過を毎日自分で知ることが出来て甚だ便利である。と云ひつゝ、色の見本を太郎に供へてくれた。検尿の結果尿の色がブルーか或はグリーンである場合には病気の経過良好を示し、若し其色が黄色或はオレンジ色又は赤の場合には多量の糖分がある、病気の餘りよくないことを示す、誤たと説明された。

そこで太郎は自ら尿を検査し其結果を一々鉛筆でマークした。斯くして太郎の経過は順調と見た。ドクターは其後一ヶ月位たつて今度は太郎にインシュリンの注射を自分でする様に教へた。それが爲毎日医者に通ふ必要もなくなつた。自分で毎日検尿しするから自然病気の経過も知ることが出来て甚だ便利になつた。又医者はインシュリン注射の場合最も大切な事四ヶ條を説明された。先づ第一にインシュリンの一定した分量を又も此を一定したタイムに注射する事は医者の命令通り精確に守ること、第二には簡単に何時何を食べたかを記入しておくこと、第三検尿の結果色を記録すること、第四特に大切な事で場合にはよりては生命にも係るのであるからよく記憶すべきことだが、それ以外何時も、またいキヤンデールをポケットに携帯すべきで、若し急に身震いしたり、だく汗を出すとか極度の飢餓を感じる場合には直ぐ此のキヤンデールを食やるとよい。



糖尿病患者は時に「インシュリン」の薬の注射の量が多過ぎた時とか過激の労働の結果或は食物不足の場合に前述の如き発作的症状を起こすのである、こゝにふつには此のキヤンデーが患者の来る迄の急手当としてライフ・セーバーの役目を務めるのである

斯くして太郎は又三ヶ月後にドクターを訪問した、太郎の顔色も「く」強まうに見へ、事実彼は大変気が持がよくなつたと云つた、彼は毎日自分で二三度尿を検査し、又インシュリンの注射をし、医者命令通り常に食事に留意して居た為、彼の尿は大抵クリン色を現はす様になつた、仕事も毎日續けたが疲れたら必ず用心して休むことを怠らなかつた

医者は太郎が興へられた注意事項を全部精確に守つて病気を処理する事を覚へたのを大慶喜んだのである、斯くして太郎は長寿の一路を進んだのである

總ての糖尿病患者は太郎の様に病気の処理法を覚へねばならない、亦一に自分の病気を認識することと医師の注意

を厳守することが何より肝要である

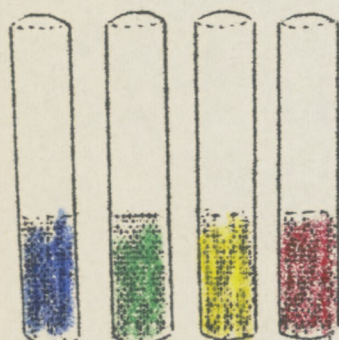
### 注意

一月曜と火曜の尿を検査して其結果を記入すること

三水曜日は其日の朝食前の尿を午前十時の尿の標本二個を午後一時半迄にクリニックに持参すること

三標本の瓶の上には姓名住所及び何日何時に尿の見本をとつたか明記すること  
四持参したる尿の見本を「ラベトリ」試験室へ届けること

五クリニックへ行つてドクターに診察を受けること



青

緑

黄

赤

毎糖

僅分の糖

多量

より多量



# 曜と月曜表一

月曜日 (○ か又リ下に 線 を 引 け ば い)

木 見 の 前  
時 十 時  
半 二 時  
七 時  
朝 食 前  
午 午 午  
後 後 後

青  
青  
青  
青

緑  
緑  
緑  
緑

赤 黄 色  
赤 黄 色  
赤 黄 色  
赤 黄 色

赤  
赤  
赤  
赤

火曜日

木 見 の 前  
時 十 時  
半 二 時  
七 時  
朝 食 前  
午 午 午  
後 後 後

青  
青  
青  
青

緑  
緑  
緑  
緑

赤 黄 色  
赤 黄 色  
赤 黄 色  
赤 黄 色

赤  
赤  
赤  
赤

## 曜と月曜表一

日 月 火 水 木 金 土

インシュリン 試験色								
インシュリン 試験色								
インシュリン 試験色								
インシュリン 試験色								





1

4

2

2





1  
2  
3  
4

1  
2  
3  
4